

同推くん

第20号 2004年7月 1日発行
海蔵地区人権・同和教育推進協議会広報部
海蔵地区地域団体事務局 TEL 33-8770

新年度のスタートにあたって

——今年のテーマは“子どもの虐待防止”——

海蔵地区人権・同和教育推進協議会

会長 川森一成

2004年度の定期総会は、6月3日に海蔵地区市民センターで開催され、2003年度の事業活動と収支予算の執行ならびに2004年度の推進体制や活動計画及び予算についてご審議をいただき原案とお承認されました。

経済情勢が厳しい現状から市からの委託事業費が年間14万円から4万円削減され厳しい事業執行が求められる2004年度ですが、限られた予算を有効に活用して事業を推進してまいりたいと考えています。

さて、私ども海蔵地区同推協は、発足後今年で12年目を迎えました。この間、すべての海蔵地区住民の皆様が「人権」が尊重される「明るく、住みよい人権のまちづくり」をめざして様々な活動に取り組んで参りました。

その成果の一つとして昨年10月18日と19日の両日に伊賀地方7市町村で第37回三重県人権・同和教育研究大会が開催されましたが、2日目の19日の日曜日に青山町で開催されました「生活課題と学習活動」分科会において海蔵地区同推協副会長の藤岡満さんが四日市市人権・同和教育研究会を代表して「地区懇談会で啓発された私」と題して報告されました。毎年、自治会をはじめ地域住民のみなさまのご協力を得て開催しております地区懇談会において、役員として活動してきた中で年を重ねるごとに着実に成長してきた自分自身の体験を事例をまじえて報告し、参加者の賞賛と熱い激励をいただき新たなエネルギーをつけ加えることができたのではないかと思います。

さて、「人権」とは、一言で言えば、人間一人ひとりが人間らしく生活を営むことができる権利を意味します。

我が国では日本国憲法により、「人権」はすべての人に保障されています。その「人権」が保障されている社会とは、女性であるか男性であるか、どこの地域の出身であるか、障害を持っているかどうかなど全く関係なく、すべての人間が等しく、差別されることなく生きることができる社会のことです。

21世紀は「人権の世紀」といわれています。1994年12月に開かれた第49回国連総会で、1995年から2004年を「人権教育のための国連10年」とすることが採択されました。今年は、その最終年にあたります。この取組は、世界のあらゆる国や地域において人権意識を確立して人権という普遍的文化の構築をめざすものです。

四日市市におきましても、1998年に四日市市人権教育のための国連10年推進本部を設置し、2002年3月には「人権尊重のまちづくり」をめざして「人権教育のための国連10年四日市市行動計画」ならびに「四日市市人権教育・啓発基本計画」が策定されました。これらの計画を具体化するために、現在「よっかいち人権施策推進プラン」が策定されようとしています。

日常生活におけるあらゆる場面で「人権」が当たり前で尊重される「人権尊重のまちづくり」を進めるためには、市民一人ひとりが、それぞれの立場でどのように考え行動するかにかかっています。

海蔵地区同推協といたしましては、そのために少しでもお役にたてばと今後とも更なる人権教育・啓発活動を展開したいと考えています。

我が国の人権施策の取組課題には、同和問題、女性、子ども、高齢者、障害者、在日外国人、性同一性障害を持つ人など社会的に弱い立場に立たされている人々の人権問題があります。中でも、最近「子どもの虐待」が社会的に大きな問題となっております。

子どもたちは我が国の未来を担う大切な宝物です。子どもたちを健全に育てることは、ひいては我が国の健全な未来を築く道でもあります。市の広報でご覧になったと思いますが、県はこのたび「子どもを虐待から守る条例」を制定しました。子どもの虐待の早期発見と適切な対応によりすべての子どもが心身ともに健全に育つための環境づくりに、県民一人ひとりが真剣に取り組むことを求めています。

そこで海蔵地区同推協として、急速、今年度の活動のテーマとして「子どもの虐待防止」問題を取りあげ、地区懇談会、人権を考える集いにおいて地域住民の皆様と共に学び、海蔵地区から「子どもの虐待問題」を1件たりとも「しない、させない、許さない」よう共に力を合わせてがんばりたいと考えています。

学習活動を進めるに当たっては、学校・園はもちろんのこと、地域の子どもの健全育成に関わっておられる各団体の皆様方のお知恵とお力を拝借して活動を展開したいと考えておりますので全面的なご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、昨今の同推協活動は、同和問題だけにとどまらず「人権問題」全般に亘っての幅広い取組が求められています。そのため顧問の皆様ならびに地域住民の皆様のご理解とご協力がなければ任務を全うすることはできません。どうか、これまでも増して暖かいご支援とご協力をお願い致します。



監査	広報部長	啓発部長	事業部長	会計部長	副会長	副会長	会長
堀田	今村	児島	近藤	高山	溝本	藤岡	川森
美昭	昭	まき	好	律	和	勝	一
子夫	江	均	仁	子	典	義	満
							成

よろしく願います
二〇〇四年度 役員体制

今年度の主な事業活動のあらまし

”子どもの虐待防止”活動に取り組みます。

①「人権を考える集い」

10月2日(土)午後1時30分から海蔵小学校体育館で開催予定。
講師に三重県北勢児童相談所の藤牧所長をお迎えし「子どもの虐待」問題をテーマに講演をしていただきます。

②「地区懇談会」

9月から11月にかけて6ブロックに分かれて例年通り実施予定。
「子どもの虐待」問題をテーマにとりあげ、啓発ビデオ視聴と座談会方式で計画します。

……いずれも詳細は、別途お知らせします。

独 立

ぼくは、ぼくは、ぼくは
ちっとも好きだったことはないよ
——さあ、気をつけて、いい子だからね！——
なんて。
ぼくは、ぼくは、ぼくは
いちどもいってもらいたくはなかったよ。
——お母さんの手々をしっかりとつかんでいなさい——
なんて。
——そんな高いところへ乗っちゃだめ！——
なんていうの、まじめに考えたことなんかいっぺんもないよ。
そんなことというのはいいことではないんだ。
大人たちはちっともわかってくれないんだ。

A・A・ミルンによる

この詩は、イギリスの詩人ミルンの「幼い幼い日のこと」のなかからとった一篇。全部のイギリスの四、五歳の子どもたちがこういうふう理解しているわけではないかも知れない。しかし、三歳ごろからはっきり始まるこのような一人の人間としての「独立」への、そこからは気づかれぬ着実な歩み。これは、人間の内側から発してくるもうけもののような価値です。イギリス人の道徳の根です。
この詩を読んで胸にこたえるものは、わたくしたちの国の子どもたちは、この年ごろに、これと正反対の——隷属と奴隷の道を歩んでいるのではないか、という事です。
周郷 博「母と子の詩集」国土社P31より

「駅で見かけた光景である。三十歳前後の母親が小学生らしい男の子を連れていた。その子がちょっと落ち着きなく動き回っていると、いきなり母親は「なに、調子こいてんだよ！」と、子どもの髪の毛をてっぺんから殴るように鷲づかみにした。これが子に対する親の言動なのかとあざんとしたが、最近時々こういう親子間の乱暴な光景に出くわす。」これはある月刊誌にでていたジャーナリストの川井龍介さんの記事の一節です。…… こんな光景に類するようなことを見かけませんか？

いま、子どもの虐待は深刻な社会問題になっています。今年度は、「子どもの虐待防止」について、地区懇談会や人権を考える集いで皆さんと共に学習することとします。よろしく願います。(啓発部)